



長崎県新人演奏会第50回記念演奏会 ～長崎県新人演奏会出演者&オーケストラコンサート～ (アルカスSASEBO)

長崎県文化団体協議会加盟団体の皆様には、日頃から地域の文化活動の推進役として、県内文化振興の一翼を担っていただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。当協議会は、昭和38年に設立されて以来、貫して加盟団体の皆様とともに地域文化の振興のために活動し、本県の文化芸術振興や人材育成に大きく貢献してまいりました。これもひとえに会員皆様のご支援、ご協力の賜物であり、心から感謝を申し上げます。

令和5年度は、本県クラシック音楽家の登竜門として開催してきた「長崎県新人演奏会」が50回の大きな節目を迎え、記念演奏会を開催したほか、本県文化芸術活動のより一層の飛躍を目指して、当協議会に初めて文化芸術分野の専門人材を配置しました。

今後は、加盟団体の活動の情報発信や相談・助言など、加盟団体を幅広く支援するアーツカウンシルの機能を充実させていくとともに、補助制度の見直しなど、当協議会を健全に運営するための体制強化を図ってまいります。

当協議会といたしましては、令和7年度に開催される「ながさきピース文化祭2025」を契機として、文化を通じた「人づくり、基盤づくり、地域づくり」の仕組みを将来に継承していけるよう、準備を進めてまいります。引き続き、加盟団体の皆様には、地域の文化活動の中核として、格別のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

## 会長あいさつ



長崎県文化団体協議会 会長  
長崎県知事  
大石 賢吾

## CONTENTS

会長あいさつ	1
国民文化祭に向けて 「文化の力」を「地域の力」に!!	2
光る君へ	3
令和5年度活動報告	4

第19回長崎県選抜作家美術展	5
第38回地域文化章	6
ながさきピース文化祭2025	7
ご案内 長崎県美術館／長崎歴史文化博物館／アルカスSASEBO	8

## 国民文化祭に向けて

# 「文化の力」を「地域の力」に!!

初めに、能登半島震災で、亡くなられたり、被災された皆様に、心からのお悔やみと、お見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を願っております。

さて、昨年は、「コロナ5類」移行後は、全国的に、文化、スポーツ全般で、行事、イベントが、ほぼコロナ前に戻った印象でした。

長崎県内でも、長崎くんちをはじめ、県内各地の、地域の伝統行事が復活し、賑わいを見せました。地域の伝統文化が、地域の活力であることを、あらためて実感しました。

昨年は、私が主に関係する音楽イベントでは、周年行事が続きました。1つは、地元で唯一のプロオーケストラ「長崎OMURA室内合奏団」の創立20周年記念コンサート!10月末に、芸術監督の村嶋寿深子さん、長崎出身の作曲家 大島ミチルさん、諫早出身で、パリを中心に活躍するアーティストレイコックルック・西岡さんという3人の「世界で輝く3人の女性アーティスト」が、素晴らしい舞台、演奏を披露。感動的

なコンサートでした。途中、大島ミチルさんが音楽を担当した映画「サバカン」の監督、金沢知樹さんが、客席から登場!会場を沸かせました。その金沢さんが、来年の国民文化祭「ながさきピース文化祭2025」の開・閉会式の総合演出を担当されることになり、大いに期待しているところです。

また、文団協が主催に関わる「長崎県新人演奏会」が50周年となり、その記念コンサートが、アルカスSASEBOで開催され、新人演奏会から、世界に羽ばたいた音楽家たちが、観客を魅了する演奏を披露。新人演奏会が、長崎の音楽文化の発展、向上に、大きな役割を果たしてきたことを、あらためて実感しました。

また、長崎県音楽連盟では、オペラ「蝶々夫人」の作曲家プッチーニの故郷、イタリア・ルッカとの交流の輪がさらに広がり、今年1月のマダムバタフライフェス「ラ・ボエーム」では、ミニ役に、ルツカからソプラノ歌手 フランチェスカさんを迎えての舞台が実現しました。今後の更なる交流の広がりに、期待が膨らんでいます。



長崎県文化団体協議会  
副会長

河野 英雄

らんでいます。

さて、まだ先と想っていた国民文化祭が、来年に迫りました。県内の市や町でも、それぞれ伝統文化、音楽、美術、舞踊など、様々な分野で、具体的な検討が行われています。長崎ならではの、その地域ならではの、取り組み、イベントもあるようです。長崎でも、「ちゃんぽん文化」「和華蘭文化」と言われるように、文化は、その地域に暮らす人々の生活そのものでもあります。

そして、地域の歴史、伝統でもあります。まさに、「文化の力」は「地域の力」と言われる所以です。国民文化祭を契機に、長崎の「文化の力」を一層盛り上げ、次の世代に受け継ぐことが、長崎の「地域の力」をさらに発展させる力になると確信します。それぞれの地域で、それぞれの団体、個人が、様々な形で、楽しく「国民文化祭」に関わり、機運を盛り上げていただくことを期待しています。



マダムバタフライフェスティバル「プッチーニおじさんのパリの屋根裏ものがたり『ラ・ボエーム La Bohème』」より

# 光る君へ

NHKの今年の大河ドラマは『光る君へ』である。『源氏物語』を書くまでの（書き終わるまでの）紫式部の生涯のドラマなのだろう。

『源氏物語』が、わが国王朝文学の最高峰であることは言うまでもない。では、王朝つまり平安貴族社会とは、どのような社会だったか。

男子は漢学に通じ、自在に漢詩を作ることができた。女子は仮名文字を自在にこなし、日記、物語などの仮名文学を隆盛に導いた。男女の交流は和歌を通して行われた。

考えにくいことだが、平安貴族社会は、まず文人の社会だったのだ。文人は、同時に風流人だ。風流でなくて、どうして漢詩が詠めよう。そして、風流であるとは、美に対して感覚が全開しているということだ。官能が、すべての喜怒哀楽の目盛りになる。

平安時代にももちろん、競争はあった。勝負を決めるのは、生まれと運と力（後ろ盾）だ。そして、そのいずれも抜きんでて持つて生まれたのが（後ろ盾は弱かったが）、光源氏なのである。

帝の第二皇子（母桐壺は産後死去）として生まれた。玉のように輝く皇子で、帝は将来の安全を図ってその子を臣下（源氏）に降下する。ある高麗人が、皇子を見て「光る君」と名づけた（「桐壺」末）。すなわち「光源氏」である。

帝は桐壺が忘れられず、面影がよく似た藤壺を入内させる。その美しさから「輝く日の宮」として「光る君」と並び称された。源氏の藤壺への道ならぬ一途の恋を縦糸にして、『源氏物語』は展開してゆくのである。

「帚木」「空蟬」「夕顔」「若紫」「末摘花」「花宴」「葵」…いずれも『源氏物語』の巻の名であり、源氏の恋人たちの名でもある。源氏は、まるで春の光のように花盛りの森に差し込み、濃密な恋の宴の空間を織りなしてゆく。しかし春はいつまでも続くわけではない。私たちは読み進むうちに、物語が激しい夏の葛藤から、秋の野分を経て、冬の木枯らしに行き着くのを知るのである。源氏と藤壺の姦通と、源氏の妻・女三宮と柏木の姦通、そ



長崎県文化団体協議会  
副会長

小西 宗十

れが遠い時を経て響きあう。女三宮の生んだ薫を、すべてを知ったうえで、わが子として抱く源氏の表情（『源氏物語絵巻』柏木）は、わが身の宿世の淵をのぞく人の、凍れる面おもてに他ならない。『源氏物語』は、王朝文化の絶頂を描くと同時に、その凋落をも暗示しているのだ。



アーツカウンシルと  
しての再出発！

〈長崎県文化団体協議会の体制整備について〉

当協議会は、県内の文化・芸術の環境整備に携わる団体です。こうした団体を、世界ではアーツカウンシルと呼んでいます。

当協議会では、事業内容を質実共に高めながら、一層県内の文化振興に貢献できる組織となるため、令和8年度の法人化を目指しています。令和5年度から専門職員を配置して、各事業の再整備を図っているほか、全国規模のネットワーク等にも加入し、情報交換等を活発化させています。

また、文化活動等に関する相談等も随時承っておりますので、いつでもお声掛けください。今後も、一段と皆様のお役に立つ組織としての充実を図ってまいりますので、どうぞよろしく願います！



【TEL】  
095-822-6049  
【E-mail】  
main@n-bundankyo.jp  
【オフィスアワー】  
平日9:00～17:00

# 令和5年度活動報告



## 令和5年

### ■令和5年度委員会・総会

★6月13日(火) 県庁会議室+オンライン

### ■主催事業

#### ●第50回長崎県新人演奏会

★6月18日(日) とぎつカナリーホール  
〈長崎県新人演奏会第50回記念事業〉

#### ●サマーコンサート

★8月6日(日) アルカスSASEBOイベントホール

#### ●巡回コンサート

★10月15日(日) 佐世保市島瀬美術センター

★10月22日(日) 諫早市美術・歴史館

★11月 5日(日) 新上五島町石油備蓄センター

#### ●オータムコンサート

★11月2日(木) 長崎県庁8F展望室

#### ●長崎県新人演奏会出演者&オーケストラコンサート

★11月11日(土) アルカスSASEBO

## 令和6年

### ■主催事業(つづき)

#### ●第19回長崎県選抜作家美術展

★1月7日(日)~14日(日) 長崎県美術館

★1月17日(水)~21日(日) 東彼杵町歴史民俗資料館

★1月24日(水)~28日(日) 佐世保市島瀬美術センター

#### ●東アジアミュージックフェスティバル2024

★2月25日(日) 長崎県美術館

#### ●第51回長崎県新人演奏会オーディション

★3月23日(土)・24日(日) とぎつカナリーホール

### ■加盟団体への補助事業

●長崎県文化団体協議会補助金 交付決定:56団体

●ながさき県民文化交流推進事業補助金 交付決定:13団体

### ■その他

●後援名義使用承認 23団体(R6.2.29現在)



第50回長崎県新人演奏会



サマーコンサート



サマーコンサート



巡回コンサート



オータムコンサート



長崎県新人演奏会出演者  
&オーケストラコンサート



第19回 長崎県選抜作家美術展



第51回 長崎県新人演奏会  
オーディション

# 第19回 長崎県選抜作家美術展

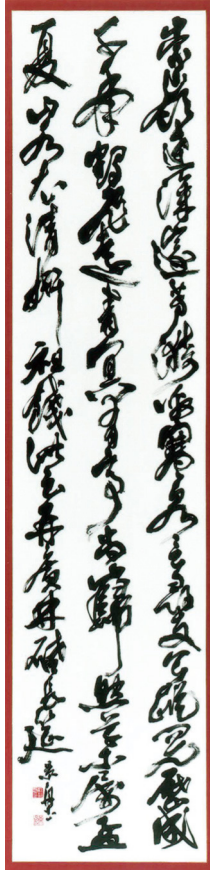
【会場・日程】◎長崎会場：長崎県美術館 県民ギャラリー〔期間〕令和6年1月7日(日)～14日(日)  
 ◎東彼杵会場：東彼杵町歴史民俗資料館〔期間〕令和6年1月17日(水)～21日(日)  
 ◎佐世保会場：佐世保市博物館島瀬美術センター〔期間〕令和6年1月24日(水)～28日(日)

【主催】長崎県、長崎県文化団体協議会、長崎県美術協会

【部門】洋画、書、工芸、日本画、彫刻の5部門

【展示作品数】長崎会場187点、東彼杵会場58点、佐世保会場106点

【観覧者数】長崎会場2,010名、東彼杵会場157名、佐世保会場525名



(書)「朱存理詩」江副景舟



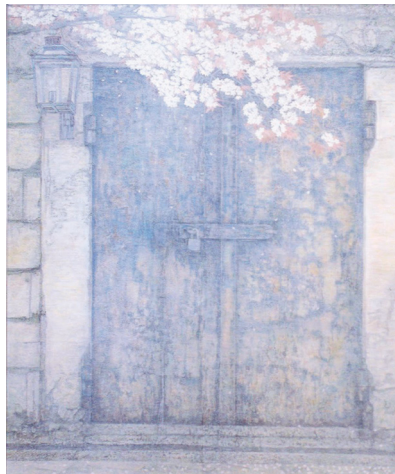
(彫刻)「至純の人 千々石ミゲル  
 — 天正遣欧使節 —」桶本 寿



(洋画)「私のふるさと」松下卓生



(工芸)「黒部の風」重松勝也



(日本画)「出島の春」村田和子

長崎県選抜作家美術展は、昭和57年度長崎県文化団体協議会創設20周年記念事業として、洋画と書の2部門からなる「長崎県現代作家美術展」として誕生しました。その後部門を増やし、平成17年度から「長崎県委嘱作家美術展」、平成23年度より「長崎県選抜作家美術展」と改称し、今回で19回目となります。

本県を代表する優れた作家の作品を一堂に展示する県内最高峰の美術展であり、平成17年の長崎県美術館開館を機に県内最大の公募

展である県展と連携し、本県の芸術文化の振興を図ってきました。

今回は移動展として東彼杵会場で開催され、長崎・東彼杵・佐世保三会場合わせて2,692名の皆様に観覧いただきました。豊かな感性と創造性に溢れた魅力ある作品を通して、芸術の素晴らしさをご堪能いただけたものと考えております。

今後多くの方に親しまれる展覧会になるよう努めてまいりますので、お力添えいただきますようお願いいたします。

県では、県内各地において地道な文化活動を続け、地域文化の向上と発展に貢献している個人及び団体に対し長崎県地域文化章を贈り、その活動と業績を顕彰しています。

第38回は、長崎ウーマンズ・ウォークラリー実行委員会（長崎市）、鹿山雷神太鼓（波佐見町）の2団体が受章しました。

## 和太鼓を通じて 人と人の繋がりを

波佐見町宿郷鹿山太鼓育成会

事務局長 古川 千秋

当会がある波佐見町の宿郷集落は、波佐見町の「まちづくり」計画の中で中心商業地として形成され、今日では、スーパーマーケットを中心に、賑わいのある町の中心地となっています。このような中でも、核家族化の進行などで地域の伝統的行事を支えてきた青年団が解散するなど、文化活動の疲弊がみられました。

これを何とかしなければとの思いから、当時の公民館役員が中心となり、宿郷集落の拠り所である「鹿山神社」のお力や地元の方のご支援を受け、平成6年12月に、若者を中心とする和太鼓チーム「鹿山雷神太鼓」が結成されました。以来29年、今は小中高校生を中心とする太鼓チームとなって活動しています。

特に、町内外からの転入者が多い集落のため、青少年健全育成と各年代層のコミュニティを図る機会づくりや、町内こども園の太鼓チームの指導と、郷土芸能としての和太鼓の振興を主眼に、日々活動を続けています。今では、若いお母さんチームも結成され、ファミリーな太鼓団体へと成長してきています。

今後も引き続き、福祉施設の慰問や町内外の祭り・イベントなど、和太鼓を通して県内外の太鼓団体との交流や、地域コミュニティの醸成など、地域活性化の一助となるよう活動していきたいと思っています。

今回の受章を契機に、さらなる成長ができるよう、引き続き皆様のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



## 長崎の女傑

### 「大浦慶」との出会い

「女性が主役のまち歩き」を  
続けて36年目

長崎ウーマンズウォークラリー実行委員会

実行委員長 竹中 晴美

人材ネットワークづくりなどを目的に設立された「長崎伝習所」から女性メンバーだけの「87紅（くれなゐ）塾」が誕生し、「女性の目から見た長崎再発見」をテーマに、女性による女性のためのまち歩きを企画したのが「長崎ウーマンズ・ウォークラリー」の始まりです。

きっかけは、長崎が誇る女傑「大浦慶」さんに出会ったこと。お慶さんの存在が、長崎の歴

史や足元の宝物への興味をかきたて、「もっと深く知りたい！」という思いが、背中をおしてくれました。

ウォークラリーは、毎年11月3日（祝日）開催し、長崎で活躍した女性たちゆかりの地でクイズを解きながら、長崎の魅力を再発見してもらうことが目的です。千名近い女性が、毎年参加（5年に1度は「男子解禁！」として男性も参加）して、10代～80代まで幅広い層の方々が、約10kmのコースを思い思いの歩き方で楽しみます。地域の商店街、生協、行政など多くの方々が市民サポーターとして応援してくださっています。

新型コロナウイルス禍では「おうちでウォークラリー」などオンライン開催やYouTubeでの動画配信など、新しい形でのイベントを実施しました。また長年の実績を通して繋がった縁から、2年がかりで「長崎らしい、新しい、伝統のスイーツ」を開発。昨年、一般販売も無事終了しました。

今後とも「自分たちのまちを知る・好きになる」ことの大切さを地域の人々や、様々な団体や組織とコラボしながら、もっと長崎の魅力を発信したいと考えています。

このイベントの楽しさを広く日本中に伝え、いつか長崎県下一斉に各地で同時開催したいなど、夢は大きく広がっています。



上/2023年11月3日開催後の恒例スタッフ記念写真  
下/日本遺産認定「長崎街道シュガーロード」を伝える、新作スイーツ「伝来物」を開発。

以前は市町等の推薦のみでしたが、第37回からは、地域資源の更なる掘り起こしを進めていくため、広く候補者を募集しています。(文団協加盟団体からの推薦も可能です。)



# 文化をみんなに ながさきピース文化祭2025

第40回国民文化祭 令和7年9月14日(日)→11月30日(日)  
第25回全国障害者芸術・文化祭

「ながさきピース文化祭2025」の統一名称で開催する、第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭の開催まで1年半を切りました。長崎県実行委員会では、イベントの実施や公式ウェブサイトの開設など、本文化祭のPRや機運醸成に向け様々な活動に取り組んでおります。

令和6年1月23日には、開催600日前のPRイベントとして県庁舎に横断幕とバナーを設置し、(本文化祭のメインプログラムの一つである)開・閉会式の総合演出家に本県出身の脚本家・金沢知樹氏が就任したことを発表しました。

開催期間中は来県される皆様をおもてなしの心でお迎えするとともに、県内各地で全国大会や地域の特色を活かしたイベントなどを開催する予定です。本県らしい文化の魅力を発信できるよう、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

また、本文化祭を広く周知し、盛り上げていくため、各種イベントにおいてロゴマークの使用や本文化祭チラシの配布など、PR活動にご協力をお願いいたします。



開・閉会式総合演出家就任会見



イベントの様子（県知事杯ダンスイベント）



県庁舎設置バナー

## 「ながさきピース文化祭2025」を一緒に盛り上げましょう!

本文化祭の認知度向上や機運醸成を図るため、イベント開催時に本文化祭のロゴマークの使用についてご検討をお願いいたします。また本文化祭のチラシの配布やポスターの掲出等、PR活動にご協力いただけますと幸いです。

ロゴマークの使用については次のとおりです。

- ロゴマークは、本文化祭の趣旨に賛同し、広報を目的としてご使用になれます。
- 使用に当たっては、事前に長崎県実行委員会事務局へ申請し承認を受けてください。
- 使用料等はかかりません。
- 「ロゴマーク使用ガイドライン」の遵守をお願いいたします。

詳しくは、  
ホームページをご確認ください。



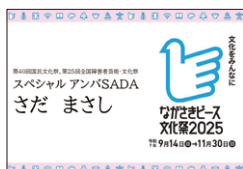
ながさきピース文化祭

検索

問合せ／

長崎県実行委員会事務局 ☎095-895-2765

ロゴマークの使用例（名刺）



ロゴマークの使用例（チラシ）



# 長崎県美術館

2024年度 企画展スケジュール

**超絶技巧の鉛筆画 吉村芳生展**  
3月22日(金)～5月12日(日)

長崎県美術館・三重県立美術館コレクション **果てなきスペイン美術—拓かれる表現の地平**  
5月22日(水)～7月7日(日)

**junaida展「IMAGINARIUM」**  
7月20日(土)～9月1日(日)

**手塚治虫 ブラック・ジャック展**  
10月26日(土)～2025年1月5日(日)

2024年度国立美術館巡回展 **超絶技巧からモダンへ—近代京都工芸の新展開—(仮)**  
2025年1月17日(金)～3月16日(日)

常設展示室では、野見山晁治や嵯島勝一ほか、長崎ゆかりの美術、スペイン美術などを展示します。



バルトロメ・エステバン・ムリーヨ  
《アレクサンドリアの聖カタリナ》  
1645-50年頃、  
油彩・カンヴァス、三重県立美術館

所在地 | 〒850-0862 長崎市出島町2番1号  
TEL | 095-833-2110  
休館日 | 第2・4月曜日(祝日の場合は翌日)  
開館時間 | 10:00～20:00  
(展示室への最終入場は閉館30分前まで)

長崎県美術館  
Nagasaki Prefectural Art Museum

# 長崎歴史文化博物館

[特別展]

浦上コレクション **北斎漫画 驚異の眼・驚異の筆**

2024年4月6日(土)～5月26日(日)

江戸時代の浮世絵師・葛飾北斎の「富岳三十六景」と並び代表作として知られる「北斎漫画」。本展では、世界一の質と量と評される浦上満氏のコレクションの中から選りすぐりの約200点をご紹介します。



所在地 | 〒850-0007 長崎市立山1-1-1  
電話 | 095-818-8366  
休館日 | 毎月第1・3月曜日  
(祝日の場合は翌日)  
開館時間 | [4月～11月] 8:30～19:00  
[12月～3月] 8:30～18:00  
※最終入館30分前まで  
公式HP | <http://www.nmhc.jp/>

長崎歴史文化博物館  
Nagasaki Museum of History and Culture

2024年度 2階常設展 特集展示(ミニ企画展)スケジュール

4/24(水)～6/16(日) 青方文書展～長崎県の歴史① 11/20(水)～1/19(日) 長崎の美術②  
7/18(木)～9/1(日) 長崎の美術① 2/19(水)～4/20(日) 島原城～長崎県の歴史②  
9/19(木)～10/20(日) くんち三九〇年展

## アルカスSASEBO 佐世保の文化を発信するNEW情報紙

音楽や美術、食にスポーツなど、佐世保の街は特色ある文化で溢れています。アルカスSASEBOでは、その佐世保の文化の昔・今・未来、ヒト・モノ・コトを様々な視点から紹介する「させば文化情報紙『文化のチカラ』」を令和5年7月から季刊発行しています。これまでに発行した全3号では、佐世保観光名誉大使である前川清氏、佐世保市のシンボルタワーのひとつでもある佐世保市博物館島瀬美術センター、そして地域文化の未来を描く佐世保市長・宮島大典氏にインタビューを行い、文化のチカラならではの、ここでしか聞けないエピソードも交えた内容で紹介しています。先日も第4号(4月1日発行)の取材を行いました。取り上げたテーマは発行日までのお楽しみですが、普段当たり前に触れている文化

も、視点を変え違う角度で見つめ直してみると新たな発見があり、文化の奥深さ・面白さを感じました。

「文化のチカラ」はデジタル版情報紙です。アルカスSASEBOのHPもしくはFacebookページ「文化のチカラ」よりご覧いただけます。また、Facebookページは佐世保市における文化活動の紹介や交流を目的に、市民の皆さまにご利用いただける情報発信ツールでもあります。皆さまの文化活動の紹介にぜひ活用ください。



■文化のチカラFacebook



「文協第76号」をお届けします。今号は8ページになっていますが、別途、「令和5年度加盟団体活動状況記録集(仮称)」を作成する予定です。ご期待ください。また、「ながさきピース文化祭

2025」を契機に、当協議会は2026年度からの法人化を視野に大きな変革期を迎えています。今後、補助金制度や自主事業も見直しを図り、会員の皆様のニーズに添いつつ、組織の体制強化を目指してまいりますので、よろしくお願ひします。(T)